

## PCB汚染に不安感

「人類の将来も危ない」

(十二月の朝日新聞より)

◇母乳や牛乳からPCBが検出されたことを聞いて「子どもを育てるのに不安である」と答えた人が七七%のほり、「許容量以内なら大丈夫」は一七%「気にしない」はわずか四%だった。大部分の人は子どもを育てるのに不安を感じ、国の許容基準も少数の人にしか信用されていないという結果が出た。

◇添加物が多く使われている加工食品について、「できるだけ加工食品はさけて家庭で料理する」という人が六七%、「気にはしているが便利なので利用する」が二七%、「あまり気にしない」一五%、気にしながら利用している層を加えると、加工食品に不安を感じている人は九四%に達する。

◇一方最近ブームといわれる自然食品については、「できるだけ使っている」が五四%、「高いから買っていない」二二%、「信用できないから買わない」一四%

◇大気汚染の大きな原因の一つである自動車については「台数の法的規制をすべきだ」七〇%「自主規制すればよい」二六%で「現状のままでもいい」は一%に満たない。

この結果に限っていえば、国や自治体による明確な法的規制が望まれていることになる。

◇水質汚染によって魚の奇形が発生しているが、将来の人類には同じような心配はないのか。この点についても八九%の人が「今後は人間にも奇形児が増加する可能性があり不安であると答え、「人間には心配ないと思う」と答えた人は八%に過ぎない。

◇最後に、さまざまな公害にさらされている人類の将来については、「このままでは人類の生存があぶなくなる」が五六%、「人間には英知があるから多少の困難があっても克服してゆくだろう」は四一%、「心配ない。今後ますます人類は繁栄の一路をたどるだろう」という楽観派は一%にも達していない。

此泉理事長は「私たちが洗剤や食品など関係業界に不安を訴えると、殆どどの企業は一部の人が騒いでいるだけ、一部の人が不安をあまりたてているといいます。そこで公害について勉強した会員だけでなく広く一般の人を対象に調査したわけで、その結果は業界がいうように決して一部ではなかった。今後、この結果をもとに役所や企業に対する働きかけと私たち自身の自主的行動の両面作戦で公害追放運動を進めて行きます」といっている。